

---

# 恋とも列車2

樹理

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋とも列車2

### 【Zコード】

Z2244D

### 【作者名】

樹理

### 【あらすじ】

主人公のあかねはいろんな困難をのりこえ成長していくストーリー

## 第1話～友達～

これは、最も輝いていた  
私の人生を描いた  
友情、恋愛を描く  
ストーリーである。

私の名前は、松川あかね。

今ね、女子の間で、友情関係がみだれてきてる。ん――?

簡単に言うと

女子どうしの「好き、嫌い」関係ってわけ。  
私も、もちろん、きらいな女子ぐらいいる。

名前は、あかり。

みんなに嫌われている。

じこちゅうだし?

男好きだし?

だから。

今日話す、物語は、あかりを避けたころの話だった。

「今日も、一日がんばるぞ――!」

昨日は、あかりにお説教されちゃった。

なんか?かつてにおこつて?

知らないけど。

私は、いやだつた。

帰りもお説教だよ?

楽しくかえりたいのにさ。

いやだよ。

今日掃除の時間～

「長いほうきげつと～」

美和と、話をしていた。

「あのや、あかり、いやだ。」

「つむもだよ」

といつていたら、あかりがきた。

「長いほつき貸してよ。」

準備室、散ちつちやいから、いいじゃん！」

私は、それでも、かさなかつた。

美和が

「かぎとつにじけ！」

と、言つたので、家庭科室を後にした。

美和が

「なにあの態度。

じこぢゅうだし？」

ほつきとつたのはあたしたちじゃん！」

確かに確かに。

かぎをとりにいき、家庭科室に戻つた。美和が

「あかり、にらんでない？」

と言つたので、私は

「ほつとけ！」

といつて、掃除した。

ちょっと、まことに空氣になつていたから、

男子の山田にほつきをわたし、あかりの元へ向かつた。

「あかり！ ほつきやまだたちがもつてるから…」

といつたら、

「は？ なにいつてんの？ かんちがいしないで…」

え、ヽヽヽヽヽ。

私は、その場を後にした。美和にそのことを話したら

「つむつ」

といつて、掃除を終わりにした。

と、クラスで一番おもしろい、繭に相談した。

「つむも、きらいだから、ヽ。

つてか意味わかんないし。「

つて言つてた。

といつて、昼休みになつた。

「CDかけに行こう!」

クラス一のCDをいつぱいもつてゐる、ななちゃん。部屋にむかい、あかりももちろんきた。男子もいた。

「じゃあ、女子がさきね!」

女子がCDジャンケンにかつたので、CDをかけた。あかりは、すもうをして、遊んでいる。その部屋にはピアノがおいてあつたので、引いていた。

美和が

「あかりのピアノの音で、聞こえない!」

と言つた。

それで、昼休みがすぎ、かえるときになつた。

「あかねいろ、うちといるとき元気ない。」

やば、やば、やば、やば。

ばれたら、ばれたら、ばれたら、

そこで、私はちがう話題にした。

一件落着?

でも、私たちの友情バトルはまだまだ続く。こう思いながら、私は、あかりと、学校へと向かつた。

## 第1話～友達～（後書き）

恋とも列車シリーズ代2段！  
みなさまのおかげでつす！  
感想よろしくお願ひします！

## 第2話～告白～（前書き）

主人公あかねは  
いろいろな困難や  
友情、恋愛、  
などを、経験していく  
成長ストーリー  
第2話！！

## 第2話～告白～

これは、最も輝いていた  
私の人生を描いた  
友情、恋愛を描く  
ストーリーである。

私は、今日も学校に行つた。

今日は、朝から、いい気持ち…

また、問題児のあかりと行つた。

今から話す今日の物語は、「告白」をテーマとした  
物語である

今日は、昇降口で、繭とあつた。

その時、友達の由希かのかから、「こんなお願ひ」ときたのまれた。

「あのや、金曜日、小倉から、テガミもらつたのを、

「ハリ箱の一一番上にあつてあるから、

おへのせつに捨てておこへ。」

と、言われたので、実行した。

「小倉、もてないのに、、、、、、、、。」

私は、そう思った。

でも、事件がおきたのは、今日の休み時間。

「ねえ～告白しないのぉ～？」

と、突然声がした。

「なにないい～」

私は、聞いた。

と、クラスの楓に聞いた。

「あのね、『こによ』『こよ』『こよ』、、、、、」

あーそういうのがあるかあ～！

私は、一生件名協力しようとした、決心した。

そこで、あのあかりも知つてしまつた。

あかりは、口が軽い。

だから、みんな嫌がつてゐる。

現在、告白しようとしているのは、かのかと、美和。

かのかのすきな人があかりと一緒になのだ。

美和は、1組だ。

なので、典子が

「なんかさあ、あかりも、将人のことがすきジャン?」

だから、なんか奪いそうな感じだよねえ~?」

たしかにそうだ。

あかりは、小悪魔。

かのかが告白すれば

美和も告白する。

でも、それは、みんなに言われたからだ。

告白なんか、自分がきめること。

なのに、

2人は、みんなに言われたから、やるんじや、

意味ない。

私はそう思つ。

私は、美和と、同じ班だ。

美和が

「告白したほうがいいと思つ?..」

私は、こいつ答えた。

「あのね、告白していい」とはひとつだけある。

それはね新しい『恋』に踏み出せぬ」となんだよ?

告白なんか、自分が決めることだよ。

人にばっかり頼つてないで、自分で決めな!」

私は、美和にお説教した見たいだった。

でもね、かのかにも、おんなんじことを言つた。

そしたら、いきなり

「告白なんかしない。

多分バレンタインにする。」

元

まぢっすか？

そしたら、  
、  
、  
、  
あかりが、  
、  
、  
、

将人と二重セイジヤーん！

私は、あかりとかえった。

あかり：もしかしてわ

將人かの力に取らレたくなし？」

と體した

二二二 そりやあそ二たよ

え、  
、  
、  
。本音  
うた。

「じゃあ、告白すれば？」

といつたら、

一  
人  
之  
生  
平

と、悩んでいた。

少し歩くと、

「かのかかわにいし・皆すれど、OKでありますかもよ、？」

と、あかりをおどしたり、

「かのか？かわいくなじやん・びみょーだし・

「う、血があるよー。」

あるとかい！

あんまり愛へなこと思つたですけビ、ヽヽ。

そう想いながら、家について、

この小説を書いた。

この物語は、実話ですよ。

本当の言葉をこの物語に書きました。

第3話もおたのしみにしてください。

きっと、楽しい実話をかかえながら――

私は、そう思い、学校へと向かった。

## 第2話～告白～（後書き）

どうでじょうひ？

実話ですよ？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2244d/>

---

恋とも列車2

2010年10月30日06時01分発行